

アイデア勝負

もりなが
森永

さかえ
栄

●公務労協・副事務局長

新型コロナウイルスは、いまだに収束の兆しを見せないなかで感染拡大防止と社会経済活動の両立は困難を極めている。“あ～これからどうなっていくんだろう”という漠然とした不安を抱くなか、「新しい生活様式」「新しい日常」での対応が求められ、今まで当たり前に出ていた活動がなかなか思うようにできないもどかしい状況も続いている。何をどうしていけば、皆のためになるのか・・・自問自答してみるが、自分自身55歳を過ぎて、頭と身体の回転がオートマチック車のようなスムーズに切り替えができず、マニュアル1速から2速で、ずーっとアクセル踏みっぱなし状態で、なかなか従来の発想からの転換ができず試行錯誤ならまだしも、ややもすると思考停止に陥りそう。そうそう、全く関係ない話だが、これまで「お前、無呼吸だよ」と、仲間から言われていたので、7月に睡眠時無呼吸症候群の簡易検査をしたところ最長で116秒間の呼吸停止があって重症レベル（即CPAP）との診断で治療を開始している。

そんなこんなで行き詰まったとき、自分は、推しのアイドルグループの楽曲を聴きライブやイベントに行き、パワーを充電、リフレッシュしている。自分の推しグループは、これまでも卒業（たまに脱退）と加入（新メンバーオーディションや研修生からの昇格）を繰り返し、初期メンバーからは当然の事ながら“ガラ”っと替わっているが20年以上にわたって輝きを放ち続けてくれている。そんな彼女たちも、コロナ禍では、ライブも中止になっていたが、イベント開催の制限が一部解除されて以降は、これま

でのスタイルを一時封印して、自分たちのグループの歌ではない、バラード中心の楽曲を一人一曲じっくりと聴かせるという形式に変更し開催している。自分は、7月以降2回しか（も？）観に行けていないが、今までであれば、会場前のファン同士の交流は当たり前風景だったが、今は、コロナ追跡システムのQRコードを読み取って自分の座席を登録するところからスタートし、検温、消毒は当然のこと、座席は前後左右一席分空けてと徹底され、これまでの熱気ムンムン、コールが飛び交う会場は、シーンと静まりかえり歌に聴き入りメンバーカラーのペンライトを静かに揺らし拍手を送るという公演となっているが、大満足で会場を後にすることが出来ており、猛暑かつコロナ禍での一服の清涼剤となっている。

このことは、自分たちの活動にも相通ずるものがあると思っていて、組織も新陳代謝を繰り返しながら維持することが必要だし、大衆的な行動も今は一箇所に集合して数千人規模ではできない代わりにネットシグネで一人一人の声を集める取組にもチャレンジしている。これからは、令和時代の取組を担う青年層が中心となり“声”を出して活動できるように、今の私たち世代がキチンとバトンを引き継ぐための方策を各々考えることも大事だろう。

さて、つらつらと思うままに書いてしまったが、明けない夜は無いわけで、今は、じっくりと慌てずに色んな意味で、“あした天気になあれ”、と、日々淡々とやりますか。

2020猛暑の中の独り言でした。